

北安曇エリア

大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村

お問い合わせ先 北アルプス地域振興局農地整備課 ☎0261-23-6514

1 わっぱらようすい わっぱらおんすいろ 上原用水(上原温水路)



MAP
C-3

【所 在】大町市
【築 造】昭和30年代
【管理者】大町市土地改良区

幅広で水深が浅い温水路(幅16~18m、深さ10cm)は「ぬるめ」とも呼ばれており、北アルプスを源とする冷たい水を水稻の生育に適した温度へ上昇させるために造られました。水路延長300mの入り口での水温は15℃、出口では2℃上昇しており、1℃上昇することで米が1俵多く採れるといわれています。四阿や遊歩道も整備されており、子供たちが水遊びを楽しむことができます。



2 こしあさわせぎ 越荒沢堰



MAP
C-3

【所 在】大町市
【築 造】鎌倉~南北朝時代
【管理者】大町市土地改良区

生活用水確保のために築造されましたが、後にかんがい用水として利用されるようになりました。北アルプスを背に流れる自然石を使った水路には、岩魚やカジカなど清流を好む魚も棲息し、周辺にヒメギフチョウが舞う豊かな自然環境を創出しています。「水土里ネットおまち地域用水対策協議会」により、自然観察会や保全活動が行われ、地域の人々に親しまれています。



7 きながしがわ 木流川



MAP
B-3

【所 在】白馬村
【築 造】江戸時代後期
【管理者】木流用水管理組合・白馬村

江戸時代後期に開削され、薪や材木を流して運んだことが名前の由来とされています。平地では珍しい高山植物も観察でき、地域の財産として守られてきました。景観・環境・生態系の保全に配慮した県営水環境整備事業による改修が行われ、「木流川と親しむ会」を中心とした保全活動等を通じて、自然の大切さや美しさを学べる場となっています。



8 つちやせぎ 土谷堰



MAP
B-4

【所 在】小谷村
【築 造】安政6年(1859年)
【管理者】土谷堰水利組合

小谷は谷が深く水利に乏しい土地でしたが、田原小右衛門・山崎又三郎の熱心な取組により、安政6年(1859年)に土谷堰が開削されました。土谷川から取水する7.6kmの用水路はわずか1週間で完成し、約30haの開田が行われたと伝えられ、小谷の堰開削の始まりとされています。水の通る大峯峠には堰の開通記念碑などの石造物が並んでおり、徒歩での観光コースにもなっています。



3 おおまちしんせき 大町新堰



MAP
C-3

【所 在】大町市
【築 造】寛政6年(1794年)
【管理者】大町市土地改良区

松本藩による再新田開発(1792年)が行われ、箆川から導水するために、山の鞍部を50mも掘り割る大工事により大町新堰が誕生しました。防火用水や流雪用水にも使用されています。また、さらに平成24年には東京電力㈱により年間610万kWhを発電する小水力発電所が建設され、一般家庭約1,700世帯分の電力が発電されています。



4 たかせがわえんがんようすい 高瀬川沿岸用水



MAP
C-3

【所 在】大町市
【築 造】昭和14年(1939年)
【管理者】高瀬川右岸土地改良区、大町市土地改良区、北安曇郡池田町土地改良区

昭和電工(株)の常盤発電所(大町市)及び広津発電所(池田町)の運転開始により、高瀬川沿岸地域(大町市、池田町、松川村)の農業用水と工業(発電)用水が昭和14年に供用開始されました。従前は、高瀬川の流況が安定せず用水確保が困難で、水争いも多発していましたが、水路が整備されたことにより、農業・工業用水の安定確保が可能となりました。



9 よこみぞせき 横溝堰



MAP
D-3

【所 在】大町市
【築 造】江戸時代(1650年頃)
【管理者】高瀬川右岸土地改良区、横溝堰水利組合

1650年頃の新田開発により、乳川本流から分岐して開削された水路です。延長1.6kmの下流に広がる水田14haを潤しています。素掘りの土水路の周辺は、草が茂り、石は苔に覆われています。水路の川底だけ石の表面が赤みを帯びていますが、用水にわずかに含まれる鉄分が歳月を経て川底の石に付着したもので、この堰の長い歴史を物語っています。



10 じゅうたろう たなだ 重太郎の棚田



MAP
C-3

【所 在】大町市八坂
【築 造】戦国~江戸時代

大町市八坂のほぼ中央に位置し、山と谷が複雑に入り組んだ山地特有の地形に点在している棚田は、周辺の山々や谷間の民家と調和し、山村の原風景である美しい景観を形成しています。地元と都会の人達により、自然や文化を通じて交流するグリーンツーリズムが積極的に行われています。重太郎の名称は、昭和22年頃に、勝野重太郎らによって開田されたことに由来します。



5 あおにせき 青鬼堰



MAP
B-4

【所 在】白馬村
【築 造】万延元年(1860年)~文久3年(1863年)
【管理者】青鬼集落

山間地で水利に乏しかった青鬼集落では、江戸時代の先人達が4年の歳月をかけ岩盤をノミで削るなどして3kmにおよぶ山腹水路(青鬼堰)を完成させ、200枚の美しい棚田を開墾しました。地域住民・ボランティアとの共同作業により、青鬼堰の水路清掃等、維持管理が行われています。



6 ひらかわとうしゅこう 平川頭首工



MAP
B-3

【所 在】白馬村
【築 造】昭和56年(1981年)
【管理者】長野県白馬村土地改良区

平川に3ヶ所あった取水口を1ヶ所に合口して、県内初のチロル式渓流取水堰堤(堰に細い隙間を設け越流した水を取水する、ヨーロッパ中部で盛んな方法)が完成し、用水が安定確保されるようになりました。平成27年に、農業用水を活用して、年間146万kWh(一般家庭約400世帯分)を発電する小水力発電施設が併設され、売電益を水路等の維持管理に役立てています。



11 あおに たなだ 青鬼の棚田



MAP
B-4

【所 在】白馬村大字北城
【築 造】江戸時代

重要伝統的建造物群保護区にも指定されている青鬼集落は、北アルプスの五竜岳、鹿島槍ヶ岳を一望し、茅葺き屋根(現在鉄板被覆)の民家と一部に石垣を伴った棚田が融合した美しい農村景観を創り出しており、写真撮影やスケッチのポイントとして多くの方が訪れています。この地域で栽培される古代米「紫米」は、地域の特産品としても注目されています。



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ